

えびはら直矢市政報告

発行人
海老原直矢

〒362-0026 上尾市原市北一丁目14番地9 TEL. 048-716-7323
E-mail. ebihara116@gmail.com https://www.ebihara-naoya.com/



2019年5号
2019.8.10



前議長・元市長のブロック塀問題 調査のため百条委員会を設置

市と前議長から説明を聴取も食い違う主張

7月30日、新井弘治元市長の所有地へのブロック塀設置工事にかかわる公金不正支出について、市と小林守利前議長から説明を聴取する全員協議会が開催されました。

市長をはじめとする市側と小林議員双方から説明を受けましたが双方の意見は真っ向から対立しており、真相解明にはほど遠い状況のまま終わってしまいました。

例えば、市の見解では、問題となるブロック塀について市では施工できないことを道路課の担当者が小林議員に伝えた際に、小林議員より「過去、市で施工したブロックなのだから市がやるべき」との発言があったとされています。しかし小林議員は「やれるのではないか」と発言したことは認めたものの、圧力をかける意図はなかったとしています。他にも、今回の問題の根幹となる職員への圧力となる発言についてすべて小林議員は否定をしました。

このことを受け有志の議員で**百条委員会**設置を取り扱う臨時会の招集を求める請求を市長に提出しました。その後議会内のグループである会派同士で合意ができ、全会派の代表の連名で百条委員会設置の決議案が提出され成立、8月9日に調査のための特別委員会を設置されました。

私もこの特別委員会の委員となりました。委員に選ばれた一人として、真相究明に向けて手を尽くしていきます。



小林前議長の説明を聴取する全員協議会



キーワード

百条委員会

地方自治法第100条第1項に規定された調査権を与えられた委員会の通称。第100条第1項では調査を行うため必要があれば関係者の「出頭及び証言並びに記録の提出を請求することができる」とされている。上尾市ではこれに加えて市などの報告を請求し検査できる第98条第1項の権限も委任されている。



データでみる

調査特別委員会を設置

小敷谷地内フェンスブロック擁壁撤去・新設工事の経緯に関する調査特別委員会

大室尚 (委員長・彩)	前島るり (副委員長・公)
海老原直矢 (政フ)	井上茂 (政フ)
糟谷珠紀 (共)	池田達生 (共)
斉藤哲雄 (彩)	星野良行 (彩)
道下文男 (公)	小川明仁 (無)

政フ…上尾政策フォーラム、共…日本共産党上尾市議団
彩…彩の会、公…公明党上尾市議団、無…無会派

次回委員会は8月27日(火)午後2時より

説明でも明らかにならない「真実」

7月30日に全員協議会が行われました。この全員協議会では前半約1時間30分市長や担当次長など市側から説明が行われ、その後約1時間小林前議長から説明が行われました。

各議員からの質問では圧力の有無や意思決定の経緯が主な論点になりましたが、一方では市側の調査が次長級により行われており市長や部長への聴取が適切に行われるかわからず、もう一方では小林議員や新井元市長が圧力となる発言を全否定しており、真実の解明が遠ざかっている印象を受けます。

市は9月に調査報告を行うとしていますが、今回設置された調査特別委員会において、議会の側でも徹底的な調査を行っていくべきです。

両者の主な見解の違い

市の見解	小林元議長・新井元市長の見解
小林議員から「市で施工したブロックなのだから市でやるべき」との発言があった	「やれるのではないかと発言した（小林議員）」
新井元市長から「なんであんな職員がいるのか。辞めさせろ」との電話があった	職員の態度が傲慢だったので別の職員に変えてほしいと伝えた（新井元市長）」
小林議員から「地権者から、『お前のところでやれ』と言われた、うちで施工する」との内容の電話があった	そのような電話はしていない。見積依頼が市から来るまで工事については知らなかった（小林議員）」
当初道路課では既存のフェンスを再利用する方針であったが小林議員が「フェンスの再利用はできない」と主張し、100万円高い額に	再利用は不可能であり、新設の方が安く済むことを伝えた（小林議員）」

活動報告



2019年7月22日 公設民営の適応指導教室を視察

世田谷区の適応指導教室『ほっとスクール希望丘』を視察。適応指導教室とは、不登校など長期欠席している小中学生を対象に設置された教室のことです。世田谷区ではこの教室のうちの1つを、フリースクールを運営する東京シュールが受託しています。この先進例を上尾でも参考にすべきです。

えびはら直矢プロフィール

昭和62年12月3生まれ。
 ●上智大学法学部卒
 ●首都大学東京社会人類学教室修了。
 国連 UNHCR 協会職員などを経て、衆議院議員公設第一秘書を務める。

大学在学中に市民団体を設立し、現在も子どもの放課後を考える団体や演劇教育を推進する団体の運営に携わっている。2017年上尾市議会議員に当選。
 家族：妻、長男、長女、次男